

28. アシグロハモグリバエの広島県における発生状況

1. 背景とねらい

広島県では、2007年8月に県北西部の雨よけ栽培ホウレンソウ圃場において、アシグロハモグリバエ *Liriomyza huidobrensis* (Blanchard) の発生を初めて確認した。本種は広食性で、ナス科、ウリ科、キク科、アブラナ科、セリ科、ユリ科、アカザ科など28科の植物に寄生し、分布・被害が拡大する恐れがある。そこで、2008年に県内の分布状況と、既発生圃場における発生消長を農業技術指導所と共同で調査した。

2. 成果の内容

- 1) 2007年に本種が初発生したホウレンソウ圃場では、発生虫数は極めて多く、薬剤防除を行ったが被害は終息せず、ホウレンソウの収穫は皆無となった。県内59調査地点のうち、発生はこの1圃場のみであった(図1, 表1)。
- 2) 2008年には、春季に新たに県南部でジャガイモ1圃場で発生があり(表1)、分布の拡大を認めたが、秋季には発生を認めなかった。春季のジャガイモ圃場では、葉に幼虫による食害が認められたが、生産物に及ぼす影響は認められなかった。
- 3) 上記の既発生ホウレンソウ圃場での、黄色水盤トラップによる2008年の発生消長調査では、成虫の発生は、8月中旬、9月中旬、10月下旬～11月下旬に認められた。誘殺虫数は、調査期間(7～16日)当たり各1頭であった(図1)。
- 4) 同圃場の作物調査では、ハモグリバエ類による吸汁・産卵痕は認められたが、幼虫の発生は殆ど認められなかった。17回の調査中4回の調査でハモグリバエ類の成虫が得られ、10/2と10/31の調査で、アシグロハモグリバエの発生が認められた(表2)。2008年は、成虫による吸汁・産卵痕が認められた発生初期の防除を徹底した結果、発生量は極めて少なく、被害はほとんど認められなかった。

3. 利用上の留意点

- 1) 今後も発生地域の拡大に注意する。特にホウレンソウでは、ハモグリバエ幼虫の被害が多発する場合、本種の可能性が高い。
- 2) 本種の発生が疑われる場合の問い合わせ窓口は、農業技術センターまたは各農業技術指導所病害虫防除チームである。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ



図1 アシグロハモグリバエ成虫 (A) とハウレンソウの被害 (B)

表1 アシグロハモグリバエ発生分布調査

	調査	調査作物	発生
	地点数	種数	地点数
2007年	59	13	1
2008年	72	8	2

* 農業技術センター，農業技術指導所調査。

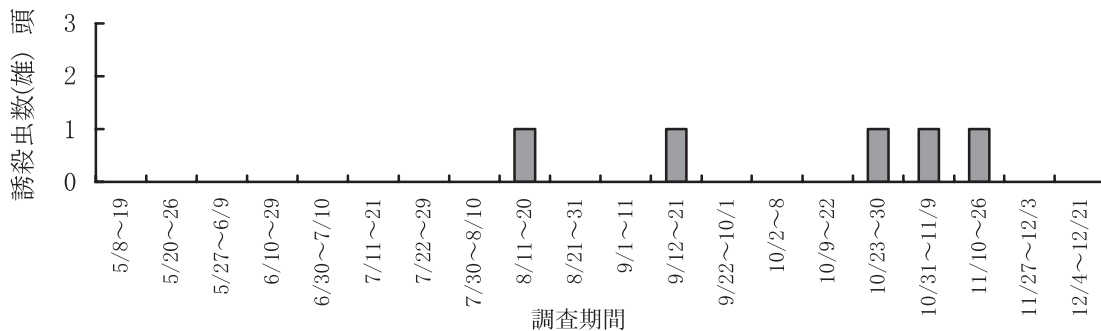


図2 黄色水盤によるアシグロハモグリバエ誘殺数の推移 (2008年，北広島町)

直径80cmの黄色水盤を雨よけハウレンソウ圃場周辺に設置。

アシグロハモグリバエは，雄成虫について交尾器を観察して分類した。

表2 雨よけハウレンソウ圃場¹⁾におけるアシグロハモグリバエの発生推移 (2008年)

調査日 ²⁾	雄成虫数 ³⁾		雌成虫数 ⁴⁾
	アシグロ ハモグリバエ	ナス ハモグリバエ	
5/8	0	1	0
10/2	12	0	11
10/23	0	9	8
10/31	1	0	0

1) 2007年アシグロハモグリバエ発生圃場。山県郡北広島町，雨よけハウレンソウ。

2) 4/28～11/10まで約12日間隔で調査した。記載のある調査日以外は，被害葉が無く採取できなかった，あるいは羽化成虫が得られなかった。

3) 圃場全体から被害葉を採取し持ち帰り，羽化した雄成虫について交尾器を観察して分類した。

4) 雌成虫は形態から種を正確に判別できないため，総虫数を記載した。